

効率的な操業体制の確立支援事業における再生委員会別取組み事例（取組類型別）
（各地の再生委員会からの計画の概要）

●操業時間短縮による効率的な操業

取組事例	取組の内容
1	たら延縄漁業3人3隻、〇〇漁業11人11隻、△△漁業2人2隻、××漁業4人4隻が共同で申し合わせの上、漁獲の多い時間帯のみ操業し、操業時間を短縮することで、燃油コストを削減する実証的操業を実施し、効率的な操業体制の構築を図る。

●漁場データの収集

取組事例	取組の内容
1	〇〇漁業者12人12隻が、試験研究機関へ標識魚の採捕情報の提供や鱗調査を依頼し、当該調査結果をもとに関係漁業者間で来遊時期を予測。当該調査結果を踏まえ、休漁日の設定や操業水域の特定等を行い、効率的な操業体制の構築を検討。
2	〇〇漁業××隻が、漁海況情報（水温、潮流等）を取得し、操業海域の特定等、効率的な操業体制を構築する。

●集魚灯の光量の削減

取組事例	取組の内容
1	いか釣り漁業1隻が集魚灯を160kwから140kwへ、いかつり漁業2隻が120kwから100kwへ削減することによって経費の削減を図るとともに、適切な光量の水準を検討する。

●統一的な航行規制に類する取組

取組事例	取組の内容
1	いかつり漁業3隻、〇〇漁業4隻、△△漁業10隻が共同で出漁時間帯や出漁日を交互に設定し、漁場競合による燃油コストの削減を図るため、統一的な航行規制を行い、効率的な操業体制を目指した実証操業を行う。
2	〇〇養殖漁業101隻が養殖用設備の設置や移動、撤去等の作業の際に統一的な速度規制を実施することで漁業用燃油にかかるコスト削減を行い、効率的な操業体制の構築を図る。
3	まき網漁業2カ統、〇〇漁業1隻、△△漁業1隻、××漁業27隻が統一的な航行規制を行うことにより燃油コストの削減に努め、効率的な操業体制を目指した実証操業を行う。
4	沖合底曳網漁業2隻、〇〇漁業3隻、△△漁業11隻、××漁業8隻等、合計103隻において、操業情報の共有により、無駄な漁場探索等を避けること及び統一的な速度規制を実施し、漁業用燃油にかかるコスト削減を行い効率的な操業体制の構築を図る。

●共同での船底状態の改善(地域提案型の取組み※)

取組事例	実施する事業の内容
1	〇〇漁業の6隻が漁業者共同で各漁船の船底状態の改善(船底・舵・プロペラ等の洗浄研磨、防汚・防錆処理や付着生物防止処理)を行うことで航行時の漁船への抵抗を減らし、燃油コストを削減することで競争力強化を図る。
2	〇〇漁業27隻が漁業者共同で各漁船の船底状態の改善を年間2回行い、漁業用燃油のコスト削減することで競争力強化に取り組む。

※地域提案型の取組みの注意点について

- ・この取組みだけを行うことは認められず、必ずそのほかの取組みを組み合わせなければならない。
- ・この取組みの積算額は、そのほかの取組みを含めた取組み全体の積算金額の1/3の金額を上限とする。